

令和7年度 結果の分析及び今後の改善策

( 中間・**最終** )

仁方中学校区 校番1 学校名 呉市立仁方小学校

| 重点 | d 中期(3年間) 経営目標               | e 短期(今年度) 経営目標  | l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)   | m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))   |
|----|------------------------------|---|--|--|
| ** | 主体的に学び、思考力・判断力・表現力を育てる。      | <p>① 生活をよりよくするために、自分の考えを深め、表現する授業づくり</p> <p>② 基礎学力の定着と向上</p>    | <p>○児童アンケートから、生活との関連を意識した発問や授業づくりを継続することで、前期よりも自分事として捉えて学んだことを生活と結び付けて考えようとする児童が増えている。</p> <p>●授業の中でアウトプットする場の設定することで、全員が表現する機会となる一方で、表現することが苦手の児童が固定化しつつある。</p> <p>●類似問題に取り組ませるが、解き方の理解に達していない児童の姿が見られる。</p> <p>○スマイルタイムやスキルタイム、自主学習「ぐんぐんノート」に取り組むことで、少しずつ基礎学力がついてきている。</p> <p>○複数教員による個別の支援をすることの成果を上げてきている。</p> <p>●何%以上と目標をもたせてキュビナを家庭学習等に活用しているが、何度も同じ間違いを繰り返したり、2回目は正解を見て回答したりしているため、学力向上につながっていない。</p> <p>●日本語の理解が難しい、落ち着いて学習することが難しいなどの配慮を要する児童には、学習を始めるまでの指導事項が多く、学力を定着させることが難しい。</p> | <p>・授業の中でのアウトプットする場(ペアやグループ活動、意図的指名等)の設定を継続して行う。その際、キーワードの提示・ヒントカード等、表現することが苦手の児童への手立てを行う。</p> <p>・類似問題での自力解決に向けて、既習事項の解法やキーワードを視覚的に示す。</p> <p>・タブレットを用いてキュビナに取り組ませる際に、筆算や途中の考えを「ぐんぐんノート」に書いてから答えるようにさせ、自主学習「ぐんぐんノート」とキュビナを関連させた取組を行う。</p> <p>・自主学習「ぐんぐんノート」のページ数は柔軟にとらえ、次の日のテストに向けた学習など、今の自分に必要な学習を具体的に知らせて行わせることで、学力向上につなげる。</p> |
| ** | 自らを律し、他人を思いやる豊かな心を育てる。       | <p>① 規範意識の向上</p> <p>② 安心・安全な風土の高い学校</p> <p>「自分の命は自分で守る」力の育成</p> | <p>○学校のきまりを守れている児童が多い。</p> <p>○素直に前向きに様々なことに挑戦できる児童が多い。</p> <p>●きまりをなかなか守れずに生活する児童も一定数いる。</p> <p>●時と場に応じた行動をとるのに課題のある児童がいる。</p> <p>○教職員が様々な学年の児童に日頃から声をかけ、協力して支援する体制が構築されている。いじめの未然防止等に向け、教職員の連携が日頃からできている。</p> <p>●学校に行くのが楽しいと思う児童が減少傾向にあり、学習への意欲や学校生活そのものへの意欲が低下の傾向がある。</p> <p>○「土砂災害対応携帯マニュアル」を全家庭で作成したことで、避難場所や避難の仕方が身に付いてきている。</p> <p>○「ひろしまマイ・タイムライン」を活用することで災害の種類や災害時の備蓄品を理解してきている。</p> <p>○定期的に避難訓練をしていることで、予告なしの避難訓練もスムーズに行うことができた。</p> <p>●避難訓練に真剣に取り組まない児童もいた。</p>                  | <p>・黙想や無言清掃を意識し、粘り強く声かけをし、できるようにしていく。</p> <p>・学校のきまりを確認する機会を設け、規範意識の向上を図る。</p> <p>・教職員全体で様々な学年の様子に目を向け、声かけ等をする。</p> <p>・児童の頑張り認め、励ます機会を増やす。</p> <p>・楽しく分かりやすい授業を意識して授業改善を図る。</p> <p>・生徒指導交流等、児童の情報を共有し、次への指導・支援に生かす。</p> <p>・防災に関する授業を系統立てて計画的に行う。</p> <p>・実践的な避難訓練の実施を定期的に行う。</p>   |
| *  | 教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境を整備する。 | 児童と向き合う時間を確保する。<br>長時間勤務を削減する                                   | <p>○授業や縦割り班活動等を通して、一人一人への声掛けによって、児童が変容していくのを少しずつ感じられるようになってきた。</p> <p>○隙間時間を見つけて成績処理などをすることで、残業時間を減らしている。また、今まで活用してきた資料やデータを基にして工夫することで、業務の効率化が図られている。</p> <p>●1学級の人数が多いことや専科等による時間が少ないこともあり、一人一人と直接的に関わる時間が少ないと感じている。</p> <p>●教材研究、生徒指導についての対応、学力補充等により、勤務が長くなり、超過勤務につながっている。</p>   | <p>・計画的に仕事を進めていくために、優先順位を決めて時間配分をしてから取りかかるようにする。</p> <p>・年度当初は目標達成が困難であったが、徐々に超過勤務が少なくなってきた。全体的、計画的に勤務時間を考えていく。</p> <p>・業務改善に向けての研修を通して、各担当からの出された業務改善案を精選して取り入れ、できることから始める。</p>   |